

出店者一覽

(順不同)

氏名	屋号
飯塚 賢路	刀剣・古美術飯塚
深海 信彦	(株)銀座長州屋
瀬下 明	丸英美術刀剣店
福岡 勇仁	(株)三明貿易 刀剣徳川
黒川 精吉	霜剣堂・黒川
菅谷 信	菅谷金銀堂
川島 貴敏	銀座 泰文堂
簀谷 三男	刀剣 はたや
齋藤 雅稔	やしま
朝倉 忠史	(株)永和堂
大西 敏之	刀剣 武蔵野
柴田 和男	(株)日本刀柴田
金丸 雅三	(株)金丸刀剣店
鈴木 雅一	平成名刀会
杉浦 昭宏	刀剣杉浦
藤田 一男	神田 藤古堂
清水 儀孝	(株)晴雅堂 清水
芦澤 一幸	静心堂 芦澤
柴田 光隆	(株)刀剣柴田
木村 義治	木村美術刀剣店
安東 孝恭	(株)安東貿易
村上和比子	(株)コレクション情報
田中 勝憲	(株)城南堂古美術店
齋藤 恒	銀座 盛光堂
杉田 侑司	刀剣 杉田
大平 岳子	勝武堂
熊倉 勇	刀剣 大東美術
田名網 守	田名網美術刀剣
大西 孝男	大西美術刀剣
草分 一雄	古美術 草分堂
横山 忠司	札幌 横山美術
ロバート・ヒューズ	慶長堂
田澤 二郎	(株)日宝
中永 潔	(有)聚楽
坂田 哲之	刀剣 坂田
持田 具宏	古美術もちだ
中川 正則	刀剣美術 中川
深津 尚樹	尚佳洞
稲留 修一	(株)舟山堂
松本 富夫	(株)美術刀剣松本
網取 讓一	福隆美術工芸
佐孝 宗則	(株)紀の国屋
平子 誠之	イー・ソード
栗原 春吉	(有)栗原金庫製作所
五十嵐啓司	(有)濃州堂
嶋田 伸夫	古美術刀剣 山城屋
眞賀 吉也	つるぎの屋
飯田 慶久	飯田高遠堂
高島 吉童	刀剣 高吉
簀谷 大輔	日本刀 簀谷
服部 暁治	服部美術店
森野 幸男	刀剣ギャラリー樹林
清水 敏行	(有)清水商会
松川浩一郎	古美術 成蹊堂
大西 博	美術刀剣・大和
吉井 唯夫	大阪刀剣会 吉井
猿田 慎男	(株)むさし屋
大西 康一	大和美術刀剣
玉山 真敏	玉山名史刀
土肥 豊久	(株)和敬堂
笹原 俊和	阿雲亭 AUNTEI
生野 正	銀座誠友堂
佐藤 均	刀剣佐藤 [倉敷刀剣美術館]
新堀 孝道	新堀美術刀剣
山本 一郎	(株)刀友会
松田 通夫	松田刀剣
松原 正勝	南紀刀剣店
宮澤 琢	江戸屋
伊波 賢一	(株)日本刀剣
村上 昌弘	刀剣・古美術 京都むらかみ
今津 敦生	儀平屋
高橋 歳夫	真玄堂
小島 昇	秀美堂
黒川 宏明	筑前刀剣堂

「大刀剣市2012」開催迫る

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



全国刀剣商業協会組合の年に一度のビッグイベント「大刀剣市」が、東京・新橋の東京美術倶楽部で、十月二十五日(金)〜二十七日(日)の三日間、開催されます。

今年で二十六回目を数えますが、昭和六十三年の第一回から毎年、産経新聞社およびフジサンケイビジネスアイ両社に後援いただいていることは、開催

の最大の励みになっています。会場は、例年同様三〜四階を出入りし、受付は四階エントランスに設置、休憩スペースも今年からお弁当の種類の増やし、十分くつろいでいただけるよう工夫します。

イベントとしては、恒例の「我が家のお宝鑑定」を毎日午後から随時受付とし、お客さまが納得されるような対応を心掛

けます。また全日本刀匠会の協力を得て「現代刀匠による銘切り実演」も行います。三階重文室の展示は、毎回NHK大河ドラマにちなんだ内容で好評を博していますが、今回は「幕末を彩る刀工達」と題して幕末期の刀鍛冶の傑作を展示します。

出展は別表の通り七十四店舗となり、それぞれが今からブラス設計に創意工夫して、お客さ

まの来店に備えてあります。カタログ製作も、出店者の協力を得ながら充実した内容で着々と準備を進めており、十月初旬には組合員の皆さまのお手元に届くと思えます。

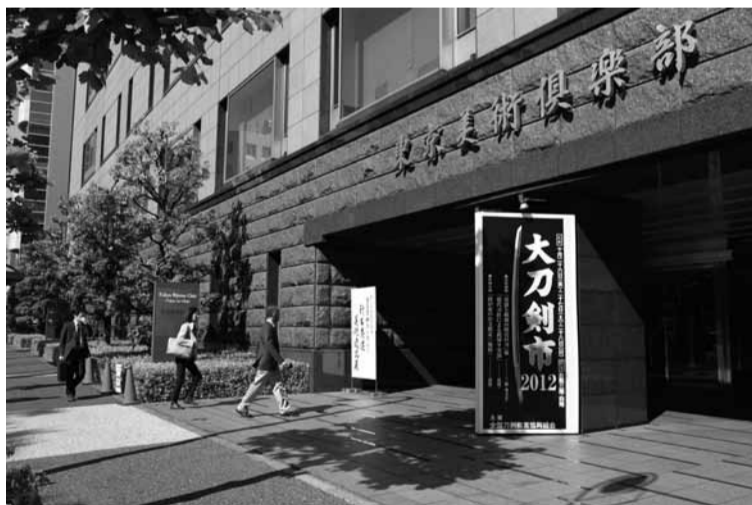
セキュリティとしては、例年通りガードマンを常駐させ、盗難保険に加入するなど遺漏なきことを期しますが、出店各位には保険内容もあらためて確認いただき、それぞれが責任を持つて商品管理をお願いします。

今回は会期中の十月二十六〜二十七日に、公益財団法人日本

美術刀剣保存協会の第四十四回全国大会(協会設立六十五周年、たたら操業三十五周年記念)が新宿の京王プラザホテルで開催されます。当組合では協会の了解を得て会場にスペースを作っていたが、二日間係員を常駐させ、大刀剣市のカタログ配布や東京美術倶楽部へのア

今後、アベノミクス効果で景気が良くなることも、業界への波及も期待されています。例年に勝る成果を追求しつつ、全刀商がつくり上げてきた大刀剣市を、組合員全員の協力を得てますます充実した世界的なイベントにしていきましょう。

(清水儀孝)



大刀剣市会場となる東京美術倶楽部 (写真は平成24年)

アクセスなどを案内します。また本年も、難病に苦しむ子供たちのために産経新聞社が取り組んでいる「明美ちゃん基金」に大刀剣市は協賛します。会場に募金箱を設置し、出店者・組合員、そして賛同して下さる来場者の皆さまに、善意の基金を募らせていただきます。

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会
吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二丁目一
TEL 06-6631-1211
FAX 06-6644-5464

刀剣古美術
三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一丁目一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 0494-1313067
FAX 0494-1313067

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

柳匠堂
柳村宗寿

岡山市北区平和町二丁目八
TEL 086-233-1211
TEL 086-233-1219
工房 岡山市北区磨屋町七丁目二
TEL 086-233-1211
FAX 086-233-1219

美術刀剣・刀装小道具商

やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円 (郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/



風向計

其之九

深海 信彦

景気の動向は「山」と「谷」という言葉で表される。「山」とは、店で商品がよく売れ、工場での生産が増えるなど、日本経済が好調で景気が一番良くなった時を言い、景気が最も悪い状態の時を「谷」と呼んで景気が登り坂と下り坂に見立て、状況が変わった時期を示している。

谷から山に登ってまた谷に降りるまでを一回の景気循環と呼び、わが国では現在、内閣府が有識者会議を開いて景気転換の時期を見極めている。

この「山」も「谷」も過ぎてみないことにはわからないが、内閣府は去る八月二十一日に有識者会議「景気動向指数研究会」を開き、平成二十一年四月を「谷」として始まった景気拡大が平成二十四年四月を「山」として終了したと判定した。

われわれの業界では信じられないことであるが、この景気拡大期間は三年と一月に及び、戦後六番目の長期にわたる拡大という。また、平成二十四年四月に終了したこの拡大期は、翌五月から後退の谷に向かっているかというところ、まだ過ぎて間もないことなので八月の研究会の判定には盛り込まれなかったものの、後退局面は十一月には終わり、安倍政権に交代後の十二月からは再び「山」に向かっているかと観測されるという。

確かにわれわれの業界も、今年二月ごろからは長い低迷期間からの脱出の気配が感じられ、平成二十年九月の、あのリーマンショック以前の相場を回復しつつあるが、いまだに五年前よりは低水準にある。

日本経済は、リーマンショック後の落ち込みから急速な反動で回復し、平成二十三年三月の東日本大震災さえも景気拡大期の一時的な落ち込みと位置づけ、昨年四月まで拡大水準を維持してきた。

かけられ、翌平成二十四年二月から六月にわたって煮き起こされた相次ぐ倒産・不払い事故によって二番底、三番底の相場下落の憂き目に遭ったのである。

日本経済の三年一月月間の拡大期は、まさにわが業界の未曾有の縮小期であったが、リーマンショック前の平成二十年八月ごろを「山」とすれば、過ぎたからこそわかる「谷」は平成二十五年一月ごろとみられ、今回の業界の景気循環は四年五月月間の縮小期を経て一回の転換を見たと言え得るであろう。

さて、「谷」に向かっている落ち込みは早く、「山」に向かっている回復が極端に遅い、日本経済の動向とかけ離れた動きを示す業界特有の遅行性は、かつて本欄で述べた地球の公転と自転に喩えられる経済動向そのものであり、外的要因によることよりも、内的要因による作用の方が、景気、ひいては取引相場に与える影響が大きいということに起因していると言える。日本経済の拡大期とは言っても、すべての企業が良いわけではなく、また、縮小期においても元の良い会社はあり、それらの

平均値によって全体の経済指標が成り立っているのであり、規模の小さいわが業界に至ってはなおさらに、個々の業者の事情が大きく全体の空気と平均値を左右するのである。

かつてわが業界が良かった時も、全員がアイディアを尽くし、能力を発揮したわけではない。ほんの少数の、あるいは一人か二人の経営手腕に優れた先輩業者の小売販売力に便乗して業界全体が盛り上がり、また、一握りの業者間取引に長けた人たちがによって取引市場が活況を帯び、相場も保たれたと言え得るのである。それ故に、数人の業者の事故が、被害を受けてもいない同業者の心胆にまで及び、業界はいとも簡単に冷え込み、長い低迷を余儀なくされるのである。

今、ようやく日本経済と景気循環の軌を一にして「谷」を脱し、「山」に向かおうとしているわが業界にとって待ち望まれるのは、一人でも二人でも、元気のいい若者の出現であろう。ゴルフ界、相撲界等にも出現が望まれるスター選手でなくとも、英雄でなくとも、大物でなくともよし。出でよ人物。出でよ人材。

組合こよみ (平成25年7月~8月)

- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第12号・『やさしいかたな』編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・大西芳生氏・大平将広氏・新堀賢将氏・藤岡弘之氏・松本義行氏・宮澤琢氏・土子民夫氏 銀座長州屋にて『刀剣界』第12号・『全刀商』第22号再校。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・土子氏
- 5日 冥賀副理事長・清水専務理事・土子氏が文化庁文化財部美術学芸課を訪問、『やさしいかたな』制作について助言を要請
- 16日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加66名、出来高10,288,250円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第13号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・網取理事・持田理事・大平氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の集荷受付。担当者、清水専務理事・嶋田理事・持田理事・冥賀亮典氏。商品搬入担当者、清水専務理事・生野理事・藤岡氏。
- 18日 「大刀剣市」カタログ掲載商品撮影第1回。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 18日 『刀剣界』第12号・『全刀商』第22号入荷
- 22日 東京刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」カタログ掲載商品の集荷受付。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 23日 「大刀剣市」カタログ掲載商品撮影第2回。担当者、藤岡氏・服部一隆氏
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『やさしいかたな』編集委員会。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・赤荻理事・生野理事・網取理事・持田理事・大平氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
- 1日 銀座刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」カタログ掲載商品の集荷受付。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 2日 「大刀剣市」カタログ掲載商品撮影第3回。担当者、持田理事・藤岡氏
- 5日 「大刀剣市」カタログ掲載商品撮影第4回。担当者、新堀氏・宮澤氏
- 8日 「大刀剣市」カタログ編集委員会(台割)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・持田理事・松本氏・土子氏
- 20日 深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事が産経新聞社を訪問、「大刀剣市」の後援を依頼
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加68名、出来高16,822,400円
- 23日 『刀剣界』第13号編集委員会(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・飯田慶雄氏・大西氏・大平氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏
- 23日 「大刀剣市」撮影商品返却のため清水専務理事・嶋田理事が組合事務局から東京美術倶楽部へ搬送。併せて宅配にて発送
- 28日 賛助会員加藤賢雄様ご尊父様の訃報をFAXにて送信
- 28日 深海理事長と映画「轟動—しゅんどう—」の三上康雄監督が対談
- 28日 「大刀剣市」実行委員会にて映画「轟動」を観賞。出席者、深海理事長・生野理事・網取理事・持田理事・新堀氏・服部一隆氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏



武士道を描く映画「轟動」を当組合が推薦

10月19日封切、有楽町スバル座などで

必要から、八月二十八日、委員十名が試写会に参加しました。また、試写会に先立って、深海理事長には「轟動—しゅんどう—」をご覧いただいた上で、三上監督との対談に出席してもらいました。

★あらためて刀が見直される好機

深海理事長が切り出しました。「時代劇が盛んなときは、人々の興味や関心が刀とか兜に向きました。しかし、盛んであったころの愛刀家世代は今や七十年代、八十年代の人たちです。当時は『切腹』や『下意討ち』があり、また、新撰組なども積極的に取り上げられました。東千代之介、中村錦之助などが活躍する時代劇を観た人たちが、今日でも刀剣ファンの核なのです。以前は時代劇がテレビや映画で繰り返し上映されることによって、時代劇で演じられた当時の風俗の最たるものである刀や鎧、兜などに自然と関心が向くものでした。それが最近はありません。また今の時代劇は丁髷に刀を差している格好だけで、その内容は現代ドラマのようであり、武士道とは違います。

ですから、今の人々には刀や鎧といった往時の風俗に対する関心が、昔の時代劇を観た世代ほどには持てない。刀離れ、武士道離れが著しくなって平成の時代を迎えていると思います。何の争いもありませんから、いよいよ平和ボケしてしまっています。昭和三十年代、四十年代にも争いはなかったけれど、時代劇が公開されるたびに、遠い江戸時代を偲んだり、昔はこういうことがあったのかと想像し、刀を手にとって見てみたとか、鎧兜を纏ってみたいとか思ったりしたものでした」

★観たい映画を創りたい

この映画の製作・監督・脚本・編集を二人で手がけた三上康雄氏は、「今、自分の観たい時代劇はない。だから自分で創る」という思いで、これに取り組んだといいます。昭和期の名作「切腹」「上意討ち」「仇討」に肉薄せんとするこの時代劇は、それぞれが己の意志を貫こうとし、武士道と人間道に揺れ動くさまを描写しています。映像は雪の中で走る、斬る……和太鼓から奏でられる緊張と荒々しさがクライマックスへと観る人を誘ってくれるでしょう。

われわれ「大刀剣市」実行委員会は、今年「大刀剣市」と映画「轟動—しゅんどう—」が共同して相互の成果が図れないものだろうか、と、先般来、製作側とのやりとりを行ってきました。

幕府から差し向けられた剣術指南役が密偵した藩の内情が公儀に知られる藩は改易、それを阻止するために展開される、それぞれの正義と忠義の武士道映画です。主なキャストは、平岳大、若林豪、目黒祐樹、中原丈雄、さとう珠緒、栗塚旭、脇崎智史ら。

愛好家・コレクター紹介 植木好文さん

●郷土にこだわり、好きな道を仕事に生かす



植木好文さんは茨城県下妻市在住で、現在六十二歳。昨年三月に退職するまで、下妻市役所の職員であった。氏との出会いは昭和五十五年ごろ、日本美術刀剣保存協会茨城県支部の、高山武士先生を迎えての鑑定会だったと記憶している。

植木さんの刀剣・刀装具好きは役所内でも有名だったらしく、平成十五年にはその見識と人柄を評価され、下妻ふるさと博物館の館長に抜擢されて五年間在籍した。



その間、数々の企画展・特別展を開催し、好評を得た。中でも特に素晴らしいのは、平成十六年に開催された「常陸の甲冑師・早乙女派の遺作」展であろう。独力で企画・開催し、大成功を収めた。

一地方の博物館(失礼)の展覧会としては異例と思われる全国的な反響があり、関西からの来館もあったという。余談ながら、そのときの入場者数の記録は、いまだに破られていない。私も数回見に行ったが、照明・位置取りなど、どれを取っても素晴らしい展覧会であった。もう一つ、植木さんの功績は、

研師の篠崎公紀氏を招き、博物館において刀の鑑賞方法、手入れの仕方などの初心者向け講習会を定期的に開き、好評を得たことである。刀剣の理解者や愛好家を増やし、文化財の保存に資してきたことは、博物館の本来的役割の一つである社会教育機能の面からも、立派である。退職後は刀剣三昧のはずであった。が、好事魔多し、両親の

介護が待っていた。悪戦苦闘の日々であったのだが、そんなとき、手持ちの刀装具類が癒やしになったという。現在はだいぶ落ち着いてきた。気持ちの余裕も出てきたとのこと。今は刀剣類の数を絞り、お気に入りの刀装具の方に気持ちが入りつつある。早乙女の鐔は五枚ほど所持しているが、早乙女一派は本拠地が地元の下妻であることからこだわりの続けたという。

早乙女派については、理由はいろいろあるにせよ、ほとんど解明されていないのが現実である。いずれ余裕ができたなら早乙女の研究をしていきたいと、植木さんは力強く言った。

また、「ごとういう本格的な時代劇の観客員数が増えて、観た人に感動を与えられるなら、昔はあのようにして、刀一本で心の問題、藩の問題、国の問題を解決したのか、最後は刀なのか、そのくらい刀は神聖なものなのかと昔を感じてもらえるでしょう。刀は軍隊の鉄砲や兵器とは違います。神聖なもので、最後に決するものです」とも語りました。

お二人が語り合ったことは多岐にわたりました。斬り合いの場面における音響の話、切腹や介錯における刀の話、二本差しと短刀について、時代劇に適した時代について、撮影の際の模造刀について、登場する刀は因州兼先であろうこと、享保時における公儀隠密の話、密貿易の話、「業物」の時代考証など、とても興味をそられる内容でした。

第4回 備中青江 鉄をめぐるとそれぞれの物語

佐藤 均

「まがねづく吉備の中山帯にせり 細谷川の音のさやけさ」この歌にある吉備の枕詞「まがね吹く」とは「鉄をつくる」という意味。現在、古代日本の鉄生産は、古墳時代(六世紀後半)には始まっていることが知られていますが、かつて岡山県南部を中心として栄えた古代吉備の国からは、約三十の製鉄遺跡と百基以上の製鉄炉という国内他地域に比べ格段に多くの遺跡が発掘され、鉄生産の中心地だったことを物語っています。

れ以降南北朝期にかけてのものを青江と汎称しています。古青江派は、安次を祖として後鳥羽院番鍛冶として名高い貞次・恒次・次家があり、他に助次・延次・包次・康次などの名工を輩出しています。

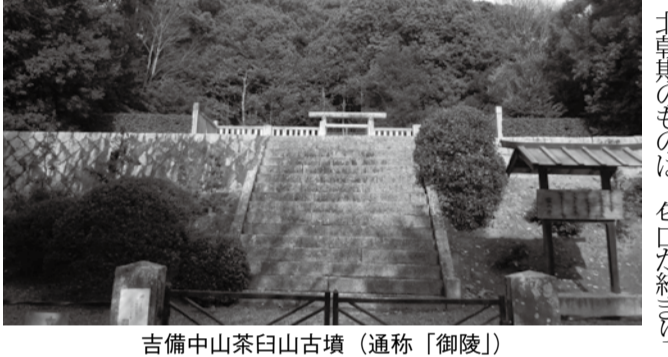
私どもは、岡山県倉敷市(青江)の地で小さいながらも刀剣専門の美術館を運営いたしております。ご来館の方々より、展示されている青江派の作品について「何て美しい鍛えなんですよ……」と絶賛の声をよく聞きます。

★あなたにとって主役は誰? さらに監督は、「僕は見終わっただ人に、あなたにとっての主役は誰ですかと聞くと、原田(平岳大)と言う人もいれば、香川(脇崎智史)と言う人もいるし、荒木(若林豪)だと言う人もいます。舟瀬(中原丈雄)と言う人もいます。観る人それぞれの立場で、社長さんや重役さんは荒木に感情移入し、社長室長とか秘書室長さんは舟瀬に、課長さん、部長さんは原田にというように、観ている最中誰かに感情移入したくなり、主役は誰なのだろうと探すのでしょね」と語り、この映画が登場人物それぞれの立場でいかに正義を貫こうとしているかを伝えてくれました。

★大刀剣市との相乗効果 目指して 予定の時間が瞬く間に過ぎ、対談は成功裏に終わりました。その後、実行委員は試写会に臨みましたが、映画の印象は「久しぶりに本格的な時代劇を見た」「一人ひとりに存在感があった」「力作である」など、皆好意的でした。

「後鳥羽院番鍛冶」とは、刀剣の製作を好んだ後鳥羽上皇の命により諸国から天下の名工十二工が召され、一カ月交代で水無瀬離宮に謹番して作刀した刀工たちを指しており、十二工の中に青江派の刀工が三名も選ばれる

「後鳥羽院番鍛冶」とは、刀剣の製作を好んだ後鳥羽上皇の命により諸国から天下の名工十二工が召され、一カ月交代で水無瀬離宮に謹番して作刀した刀工たちを指しており、十二工の中に青江派の刀工が三名も選ばれる



古来、倉敷の地でこのような名刀が製作されていたのは知らなかったと言われる方も多いことから、もっと多くの方々に備中青江の名刀が広く認識される事を願っております。



三上監督(右)と深海理事長

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界

『やさしいかたな』改訂版10月に刊行

小冊子『やさしいかたな』が全国刀剣商業協同組合から発行されたのは、今から二十二年前。過去三回増刷され、累計八万部が全国の刀剣商・愛刀家はじめ多くの刀剣関係者に配布され、非常に重宝がられてきたが、現在組合事務所にも在庫は全くない。そこで、急ぎ増刷の必要に迫

新潟県長岡の名店を継ぐ若い力

刀剣商リレー訪問⑬

土肥富康さん

東京から二時間半、上越新幹線の長岡駅を出ると、目の前を三國街道が走る。中山道から北陸の寺泊へ至る主要街道であり、関東と越後を結ぶ要路である。上杉謙信をはじめ、参勤交代の諸大名が通った歴史のロマンたっぷりのこの街道沿いに、株式会社和敬堂は店を構える。

先代である土肥富作氏が昭和二十八年に与板町で開業し、現社長の豊久氏が引き継ぎ現店舗へ移転、昨年八月には大阪刀剣会吉井での修業が明けた富康さんが戻り、三代目となるべく店を手伝い始めた。

富康さんが家業を継ぐと決めたきっかけは、子供のころから刀剣・書画・陶芸に囲まれて育った環境があるのだろう。富康さん曰く、美術品の中で日本刀は仏教美術に並び、最も歴史が古い。だからこそ日本刀の素晴らしさをたくさんの人に伝え、後世に残していく手伝いがしたい。そしていつか日本刀の素晴らしさを語る数寄者をたくさん育てられる商売人になり

られているが、この機会に全ページを見直し、銃刀法の一部改正などを含め、情報の更新を図ることとした。現在、編集委員会にて作業を進めており、十月中には完成する予定。

内容としては特に、刀の発見から登録まで、登録証の交付、海外への刀の輸出、刀剣に関する法律Q&Aなど身近な問題を取り上げられ、また登録事務所を所管する都道府県教育委員会の担当部署・連絡先についても最新の情報となっている。組合員の皆さんには、これからも大いに活用していただきたい。

なお、今回の改訂に当たり、警察庁生活安全課、文化庁文化財部美術学芸課の方々には多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。(冥賀吉也)



和敬堂と土肥富康さん

株式会社和敬堂 〒940-0088 新潟県長岡市柏原二二一六 ☎〇二五八三三三八五〇 (大西芳生)

取り上げられ、また登録事務所を所管する都道府県教育委員会の担当部署・連絡先についても最新の情報となっている。組合員の皆さんには、これからも大いに活用していただきたい。

なお、今回の改訂に当たり、警察庁生活安全課、文化庁文化財部美術学芸課の方々には多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。(冥賀吉也)

プローチを基本に据える。モノ商品とコト商品、この二つの融合をイノベーションと捉え、新しい価値創造を目指す手法はまさに大阪の修業時代と現社長の仕込みのたまものである。

機会があれば一度長岡を訪れて、若き刀剣商と刀談義に花を咲かせるのも一興ではなからうか。噂では一升瓶をサラッと空ける酒豪とのこと、バッグの隅に二日酔いの薬を忍ばせておいた方がよいかも。

「お客さまにはただ商品を買ってほしいはないです。売るつもりもないのです。お客さまの趣味がただの収集に終わるのではなく、心の支えや心の豊かさにつながるお手伝いをしたい。だからモノではなく店を買っていただきたいのです」と語る富康さんの眼は真っすぐである。

顧客を「個」として認識したパーソナルア

若者広場

森井 鐵太郎

日本の美風と 伝統文化のために

連日猛暑日が続きますが、この夏の熱を少し刀剣界にも分けたいと思う今日このごろです。

私は研師を父に持ち、幼いころから刀を研ぐ父を見て、漠然と跡を継ぐものと思っていました。しかし、初めて刀を持ったのは、研師になりたいと父に告げた高校三年生の夏休みでした。初めて手にした刀は、予想を超えてはるかに重く、鮮やかに

に光り、背筋の伸びる緊張感があつたことを今でもはっきりと覚えています。

高校卒業後、藤代興里先生に弟子入りし、十二年間修業させていただき、埼玉県狭山市にて独立しました。研磨は無駄に減らさず、刀の寿命を縮めないことが一番大切なことだと教わりました。

独立をして七年がたち、最近思うことは、若い世代にはほとんど言っていないほど日本刀が浸透していません。

刀と言えば、凶器というイメージしか持たれず、怖いという感想で終わってしまう。これでは業界のみならず、日本文化にとつても危機であると思います。もちろん日本の美術品は日本刀だけではありませんが、日本刀が日本の歴史と共にあったことは間違いありません。

今では若い世代より外国人の方が日本刀に興味を持って勉強したり、鑑賞したりしているようです。海外の方に話を伺うと、自国を愛し、自国の文化を知り、その上で日本文化に触れて日本刀に惹かれたと、口をそろえておっしゃいます。

日本刀は、日本人特有の精神性と美意識によって生まれた美術品です。一振の刀が所持者の命を守り、時には一国の運命をも動かす宝であったこと、それは現代においても生み出されていることを、すべての日本人に知ってほしいと思います。

現実には家の守り刀、子の守り刀というわが国の美風は薄れ、嫁入り短刀は単なる衣裳の化にとつても危機であると思います。もちろん日本の美術品は日本刀だけではありませんが、日本刀が日本の歴史と共にあったことは間違いありません。

刀職紹介 第12回

川島貴敏

〈研師〉佐々木卓史さん



佐々木卓史さんは、昭和十八年生まれ、六十九歳。十七歳のときに刀剣界で生きていきたいと心に決め、当初、刀匠の小沢正寿師に弟子入りを希望し、数年間通いましたが「刀鍛冶では食べないから研師にならなさい」と言われ、保証人にならなさいと言われ、人間国宝である

永山光幹師が主宰する永山美術刀剣研磨研究所へ入所、三年間の修業を経て独立されました。最初のコンクールでは入選でしたが、その結果に奮起した佐々木さんは翌年のコンクールで見事優秀賞を受賞、その後も特賞を受賞するなど、大いにその実力を発揮されました。

佐々木さんの座右の銘は「研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

一部となってしまっています。私は、一人でも多くの方に日本刀の美しさを感じてほしいと思います。そのためには日本刀の魅力を最大限に発揮できる仕事をし、研師としての誇りを忘れず、負託された責任を全うし、業界発展のために微力ながら精進してゆく所存です。

■連絡先 〒350-1335 埼玉県狭山市柏原三二一六一八〇 ☎〇四二九五二一六三五

■一筆啓上
今回の寄稿者は、研師の森井鐵太郎さんです。

森井さんは高校を終えるとすぐに藤代興里氏入門、長い修業を経て狭山市に独立開業し、はや七年。若手から中堅へと歩み始めた森井さんは、今年で三十七歳。藤代一門では、修業十年で独立を許されるということだが、森井さんは師匠に自らお願いし、二年間さらなる修業を重ねた。

今年、その森井さんの飛躍の年となった。公益財団法人日本刀文化振興協会のコンクール研磨の部で、最高賞の同協会会長賞を受賞したのだ。

父上の森井健訓さんは鳥取県米子市で刀剣研磨に携わり、弟に、前出刀文協評議員を務め、弟の敦史さんは鞘師として活躍されている。刀剣一家の長男として、ますますの活躍が期待される。

略歴 昭和五十二年米子市生まれ。平成七年藤代興里氏入門。公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催刀剣研磨外装技術発表会にて十一年努力賞、十五年十八年優秀賞、十九年特賞受賞。同年狭山市にて独立。二十年・二十四年熱田神宮にて技術奉納。公益財団法人日本刀文化振興協会主催新日本刀・刀職技術展覧会にて第一回(二十二年)金賞二席、第二回金賞一席、第三回銅賞五席、第四回会長賞受賞。(持田具宏)

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

研師は研磨のプロフェッショナルとしての威厳とプライドを持つこと」です。研磨のプロとして自らの仕事に誇りと責任を持つことを日ごろ心がけ、弟子たちにも戒めておられるそうです。研磨代金は、刀身の状態によ

■全刀商の活動紹介 大刀剣市実行委員会 (番外編) ある日のカタログ作成当番もののけの潜む踏切!?

コッココッコッコ、ハイヒールの音がする。刀匠川崎暁平が一日の仕事を終え、火床の始末をしているとき、その音は聞こえてきた。今夜は何日だろうか。第一、この鍛刀場の周りはハイヒールで歩くのには適していない。今夜はその音の主を確かめてみようとの道路まで出てみたが、誰もいない。しかし、コッココッコッコ、ハイヒールの硬い音だけが未舗装路に消えていくではないか。そのとき川崎刀匠は、音源の先の闇にこの世ならぬ世界がぼかりと口を開け自分を待っている気がした。その先へは、一歩たりとも踏み出さなかったという(川崎暁平「プロダクションウチムネノウチ」より抜粋)。

さて、寝苦しい今夜は俺も川崎刀匠同様、お呼びがかかっています。話「大刀剣市」のカタログ作成作業は、この猛暑のなか天王山を迎える。今年も多くの若手・中堅刀剣商が汗にまみれ、スタジオに、印刷会社にと自分の本業を顧みず詰める。少し前の話だ。

〇七年の刀装具を撮影したのは、ベテラン要史氏。氏の刀剣界での活躍の今さら何を語れというのだろうか。知人の広告代理店社長の「年配の写真家にとってアシスタントは奴隷だ」という言葉。子供のころ見た立木義浩カメラマンがアシスタントをイビるカメラのCM、これらを予備知識にアシスタント当番としてスタジオオカナメに出向いた俺には、この初老の写真家は拍子抜けするくらい穏やかで優しい人だった。

「一番好きなものを選んでいいぞ」と言いつつ、午前中の早い時間から宅配弁当のチラシを俺に渡す気づかいを見せられる反面、一度ファイナーを覗くといっぺんにヒリヒリとしたオーラを出し始める。配置チェック、シャッター回数チェック、室内灯の点灯・消灯がこっちの仕事だが、失敗は、氏が放つオーラからも許してもらえないのがわかる。灼熱の太陽が沈み、緊張しつ放しの撮影が大詰めを迎えたころ、嶋田理事から嫌な指示が入った。組合事務局でなく、俺の職場に撮影の終わった高額の刀装具を預かってくれと

いうものだ。本紙第十二号の金融委員会の記事にも書いたが、高額な物品たるものが現金だから、他人のものを預かるのはあまり気が進まない。しかし、事務局が開いている時間ではない以上、仕方ない。撮影終了後、車を近くの有料駐車場から出し、要氏に手伝ってもらい、後部に刀装具を載せる。スタジオのあるビルへの入り口前、車は鼻先を小田急参宮橋駅に向けて停まっている。その向こうの首都高速代々木入り口が都合がよい。

日本美術刀剣保存協会に車であたるときは参道、乗馬クラブ右折、その先Uターンで首都高へ乗るが、今夜は近道を探そう、どこか踏切を超えれば一発で高速入り口だ、と俺は考えた。狙い通り、クラウチの先に踏切はあった。警報音が響き、遮断機の前に車を止める。

俺のこの日の足は、小型のワゴン。鎧櫃が五つと人が二名乗れ、重宝しているが、冷房が設定温度方式だ。暑い寒いと感じるのは車でなく乗員なのに、という思いはあるが、これは話を先に進める。

冷房のコンプレッサを動かすには力が必要となり、車はアイドリングを上げる。停車時にオートマのこの車のブレーキを踏んでいても心なしか前に進むとするのだ。右から新宿行きの各駅停車がやって来たとき、車は冷房をさらに効かそうとアイドリングを勝手に上げやがった。ググッと遮断機が近づく。あわててブレーキを強く踏み、遮断機が上がるのを待った。

を鳴らした。都会では少数派の軽トラック運転者は年配の女性。仕方なく、先ほどの踏切を渡ることにする。遮断機の前で停車するが、こんなときに限り妙にブレーキペダルに浅く足の指がかかった。このとき、また先ほどの冷や汗を車が感知したのか、冷房のコンプレッサとアイドリングにさらに強く前に押し出されそうになる。右から今度は箱根発の特急がやって来て、足の指が引きつった。ミラーの中の軽トラの女性はこっちを無表情で見ている。俺は後ろに積んである刀装具の総額を想像すると同時に、小田急電鉄参宮橋駅長さんが、わが家の玄関前で嫁さんに「この度はご迷惑ですが、ご主人に威力業務妨害が発生しております、その請求を……」と説明するシーンまで想像し、汗はますます引かなくなった。

想像は現実とならず、今度は二度Uターンを繰り返して首都高速に乗ったが、次の日、忘れた夏物のジャケットをスタジオオカナメに地下鉄で取りに行くまで、心にもやもやと魘魅魍魎が入り込んでいた感じを払拭できなかった。

要氏は「君らはリッチだなあ。僕の世代ならジャケットは財産だ。絶対忘れないぞ」と笑顔で言う。氏のこの笑顔が、俺を正しく現実の世界へ戻してくれたような気がしてならない。

また後日、スタジオオカナメと同じビルで刀剣店を開いている旗谷大輔氏にこの話を聞かせたところ、「そんな便利な道はないですよ。僕の店に来たら乗馬クラブ右折、その先Uターンで首都高へ入るしか道はありませんよ」と教えてくれた。急がば回れ、だったのだ。

私が出会った珍品・逸品 (二代忠広を支えた近江大掾忠吉に一目惚れ)

刀 銘 肥前国住近江大掾藤原忠吉 剱物同国住忠長

この忠吉との出会いは、平成十五年の秋も深まったころのことでした。友人の研師とともに京都旅行に行くことが決まり、旅の最後

に彼の旧友である日本刀コレクターにお会いすることになったのです。こうして訪ねた刀剣収集家は八十歳くらいのご老人で、会社を経営する会長さんです。立派な日本庭園がある大きなお屋敷の門をくぐり、書院造りの客間に通されました。しばらくすると奥から大きな風呂敷包みを持って

らせることになり、今では私の大切な愛刀となっています。本刀は、小板目肌よく詰んだ鍛えに中直刃を焼き、小足入り、匂深々として小沸よく



交換会紹介 全刀会

刀剣会を常にリードしてきた輝かしい歩み

全国美術刀剣会(全刀会)はかつて寿縁会という名称の下、中宮敬堂氏・伊波富次郎氏という元老を中心に活動していたのだが、昭和四十三年に全刀会と名称変更した(本紙第七号)。

刀会には常に刀剣会の中心であり、常に素晴らしい先輩と素晴らしい品物がそこにある会だ。全刀会に参加できるようになるまで、小生も苦労したことを覚えている。

お知らせとお願い

■本紙購読について 「刀剣界」は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に一年間無料でお送りしています。中につき、ご希望の方に一年間無料でお送りしています。

■お申し込み・お問い合わせ先 全国刀剣商業協同組合(全刀商) 〒169-0072 東京都新宿区大久保 二一八一〇 新宿スカイプラザ一三〇二 TEL 03(3205)0601 FAX 03(3205)0089

田中勝憲

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株)城南堂古美術店 代表 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四一三一〇 TEL 03-371-0676 FAX 03-371-0677

ブック・レビュー BOOK REVIEW

人生と商道の教訓が詰まった二部作

『生い立ちの記』『忘れな草百選』『日々新無常迅速』

伊藤典夫著(私家版)

われわれの大先輩である伊藤典夫翁が、このほど三冊の書籍を相次いで出版された。

一冊目の『生い立ちの記』によれば、翁の遠祖は信州飯田の大島村出身で、武田信玄配下の武将。後に徳川家康の家臣渡辺平蔵に仕え、その後尾張徳川家に仕官、馬術師範となり「お旗奉行」として三百石を賜ったが大島六右衛門為龍である。このことは尾張藩の『分限帳』に記されているという。

自の観点で描かれ、非常に参考になる。

例えば、尾張興善寺の鐔では「地金は赤銅であるが、尾張の泥鰌と称する黒味のある四分一である」、鐔知多象嵌では「この手の細かな真鍮象嵌は知多象嵌」と教えられる。そのほか、山吉兵の鐔は数枚所載され、初二代の銘や作風の相違点など実に詳しく述べられている。翁ならではの見方を惜しげもなく教えようとしているのだ。

三冊目の『日々新無常迅速』では、翁の師匠として刀剣では

豊場重春氏・藤代松雄氏、刀装具では岩田光雄氏を挙げ、出会いと思ひ出、教訓などを、その時代時代のエピソードを交えながら懐かしく語っている。

また、翁は日刀保名古屋支部発足当時からメンバーでもあり、昭和二十五、六年ごろからの支部の様子を詳しく綴っていて、興味は尽きない。

伊藤翁は昭和五十七年、会社社長を辞任し、五十四歳で桜山堂主人として刀剣商の道に入った。「刀や鐔の鑑定のための勉強は、自分を守るための自衛手段である。これを怠れば、餌食になる。この世界は、食うか食われるかである」と、自らの苦い体験も交えて、後進に教諭論している。本書は、戦後の生きた刀剣史とも言える。

翁は今年、八十五歳になられた。ますますお元気で活躍されることを祈念します。(冥賀吉也)

※私家版につき販売しておりません。お読みになりたい方は、組合に借用を申し込んでください。

「刀剣の達人たち」の人となり博識と情熱で綴る

『刀剣人物史』

辻本直男著 本体二二〇〇円十税 宮帯出版社

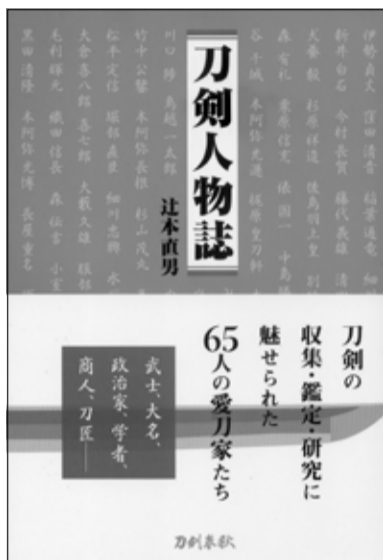
月刊新聞『刀剣春秋』に昭和五十二年三月から五十八年二月まで連載された「刀剣人物史」が三十年を経て書籍になった。新聞連載はほぼ一ページを費やし、第一回・伊勢貞丈、第二回・新井白石、第三回・稲葉通龍と続いたから、辻本先生ずいぶん気張っているなと思いつ

つ、中身にはあまり興が湧かなかった。そのうち、近代から現代の人物まで入ってきて、先生ご本人とは親しい関係だったなと確信される格別力こぶの入った評伝もあったりして、毎回が楽しみにしたものである。

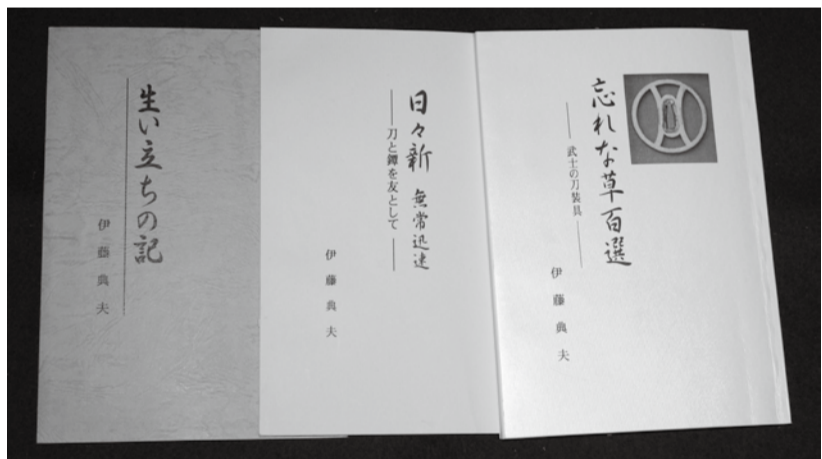
「棺を覆いて事定まる」などと俗に言う。しかし人生、そんな簡単なものでもない。だから、その人の足跡をたどり、思想・信条を知ることが、ピーピング(のぞき)とは全く異なる意味で楽しい。

類書に網屋・小倉惣右衛門の『名士と刀剣』があるが、こちらは取り上げた人物がほぼ愛刀家なのに対して、「刀剣人物史」はまさに多士済々、刀にまつわるそれぞれの肩書きを考慮するだけでも頭の芯がキンとなってくる。例えば、明治二年、公議所に帯刀廃止を提議して猛反対に遭い、一時失脚する森有礼などには、いわゆる刀剣界の粹ではとらえきれない。そうした人々が六十五人も取り上げられているのである。

六年に及ぶ連載をものめられた辻本先生の博識と情熱には、頭が下がる。生前、書籍化される



同業の立場から、本書の編集にあえて注目を付けるのであるが、人物で刀剣史を構成する筆者の意図を汲み、カテゴリー別に配列すべきであろう。それと、肝心の辻本直男先生の経歴は、丁寧に記録してほしい。(土子民夫)



NEWS & TOPICS 伊波賢二氏が東京美術商協同組合理事に就任

当組合常務理事である伊波賢二氏がこの度、東京美術商協同組合理事に就任された。このことの意味が今ひとつ理解できない方もいるかもしれないので、あえて申し上げる。当組合の交換会や大刀剣市の会場は東京美術倶楽部であるが、そこを運営する組織こそが東京美術商協同組合なのである。この理事に就くということは、刀剣業界の長きにわたる歴史の中で一つの「目標」でもあった。過去において、それぞれ候補とされた方々もいたが、残念ながら

NEWS & TOPICS 刀文協「刀職者実技研修会」を開催

公益財団法人日本刀文化振興協会(刀文協)では八月二十三、二十五日の三日間、長野県坂城町の坂城町中心市街地コミュニティセンター多目的ホールで「第六回刀職者実技研修会」を開催しました。この研修会の目的は、日本刀に関する職方の技能を継承し、職業として自立できる時代の人材を育成することにあります。また、支障のない範囲で公開し、日本刀文化への理解を深めてもらう機会としています。今回は、文化庁の文化芸術振興費補助金「文化遺産を活かした地域活性化事業」に採択され、「刀匠のまち『坂城』の文化遺産活用・活性化事業」の一環として実施されました。

開講式には、本研修会の視察のためにお運びいただいた文化庁文化財部伝統文化課の文化財調査官、毎年お世話になっている坂城町の町長・教育長・産業振興課長など多数の来賓の列席を賜り、励ましのお言葉を頂戴しました。初日からNHK長野放送・NBS長野放送・ABN長野朝日放送・UCV上田ケーブルテレビジョンほか新聞・雑誌などの取材が相次ぎ、忙しい一日となりました。その日の昼の放映を見た方々まで続々と見学に訪れましたが、特に支障なく、作刀・研磨・白鞘・白銀・柄巻きの各部門の本格的な仕事をみていただくことができました。

文化財調査官には五部門の研修状況を見ていただき、これも毎年公開されている宮入鍛錬道場の刀匠部門研修生の本格的な鍛錬風景の視察のあと、故宮入昭平刀匠の遺作をはじめとする新作刀の鑑賞会にご参加いただきました。仕事は、言葉だけではなかなか理解できません。実際に目の前に刀身と道具があつてこそ有益な指導が可能です。理解も深まるものであり、研修の大きな意義がそこにあります。すべての刀職者が集うこの研修は、交流の場としてもますます意義を深めており、研修生以外にも中堅の刀職者が遠方から泊まりがけで見学に訪れ、熱心に意見交換している



修了式後の研修生と講師陣

研修生と講師陣の修了式後の写真。参加者は刀匠、研究者、愛好者など多岐にわたる。講師陣は各部門の専門家による指導が行われた。



両家を代表して謝辞を述べる飯田慶久氏

飯田慶雄君と真央さんが結婚

去る七月二十八日、東京・目黒の椿山荘にて飯田高遠堂取締役の飯田慶雄君と真央さんの結婚式・結婚披露宴が開かれました。

筆者は披露宴のお手伝いを仰せ付かったのですが、列席者の数の多さにただただ驚くばかりでした。十人ほどが応対する受付にそれぞれ長い行列ができ、どの列も終わりが見えないのです。

披露宴はまず当組合理事長の深海信彦氏の、刀剣業界のみならず、美術業界の伝説となるであろう凛とした

た祝辞で幕を開け、東京美術倶楽部代表取締役会長の浅木正勝氏の祝辞が続き、株式会社日本刀剣社長の伊波賢一氏が飯田家と伊波家の長きにわたる親しい関係を披露するなど、お二人の幸せに花を添えていました。

祝辞も豪華なら余興も素晴らしい、美しいオカリナの音色に酔いしれたり、新郎の大学時代の友人たちによる祝福オリジナルムービーを見たりして、和やかで楽しいひとときが過ぎてゆきました。

また、新郎と刀剣業界の仲間たち

による新婦真央さんへのお守り刀のプレゼントは二月から準備していた一大イベントで、新郎の人望を窺い知る素晴らしいものでした。その製作プロセスは、映像で紹介されました。

お二人のすがすがしさが印象的な結婚披露宴も、新郎の父である飯田慶久氏の笑いあり感動ありのご挨拶と、新郎からの力強くしっかりとしたお礼の言葉でお開きとなりました。

お二人の輝かしい未来を祈念します。(宮澤琢)

新発田市主催「故天田昭次先生お別れの会」開く

重要無形文化財保持者(人間国宝)・当組合顧問で去る六月二十六日に亡くなられた天田昭次師の「お別れの会」が地元新潟県新発田市で八月五日に開催された。天田師には平成十五年、新発田市名誉市民の称号が授与されているため、新発田市と同教育委員会が共催して執り行われた。会場となった新発田市民文化会館には、師の急逝を悼む市民ら約七百名が参列した。

二階堂新発田市長の「告別の辞」に続き、「お別れのことば」を泉田裕彦新潟県知事、中野洗新潟県議会議長、宮入小左衛門行平全日本刀匠会副会長・公益財団法人日本刀文化

振興協会専務理事、斎藤明新発田市議会議長が捧げた。その後、献花の長い列が続いた。

天田師は地元においても新潟県災害復興祈念剣「不動丸」をはじめ、豊浦町閉町記念刀、新発田城復元完成記念太刀、新発田市総鎮守諏訪神社御神宝刀などを製作、郷土の誇りを刀剣作家として広く市民に慕われていた。なお遺作展は新発田市民文化会館会場(八月六日・五日)に続き、同市市岡温泉のカリオン文化館(八月十七日・九月三十日)、十日町市の星と森の詩美術館(八月九日・九月二十九日)で開催されている。

(土子民夫)



お別れのことばを捧げる宮入小左衛門行平氏

姿が印象的でした。

仕事は何か一つのきっかけで大きく変わることがあり、研修生の中にはこの研修での経験により、刀文協

主催の刀職技術展覧会において著しい成果を見せている方もいます。筆者自身、一昨年より、希少になってきた天然砥石を効率よく加工できるよう

うに、機械による裁断方法なども指導していますが、今後一層魅力的な研修会になるよう願っています。

(研磨講師/阿部一紀)

備前長船刀剣博にて「お刀女子」限定の鑑賞会

刀に関心を寄せる女性限定の「お刀女子会」が8月4日、瀬戸内市の備前長船刀剣博物館であった。刀のイラストや刀工の新作が並ぶ同博物館の「二次元VS日本刀展」(二次元刀立体展実行委など主催、山陽新聞社共催)の関連イベント。岡山県内外の17人が参加。刀工から「日本刀は多くの職人が関わる総合芸術」などと説明を受け、同博物館所蔵の刀を手にとって鑑賞した。「刀には歴史やロマンが詰まっている。美しさ、技術の高さに感激した」と兵庫県伊丹市からの参加者(30歳)。

男性の愛好家が多いとされる刀の世界だが、「近年、女性の間にもその魅力が広がりつつある」と同博物館。新たな試みである女子会は、今後のファン拡大に向けた「伝家の宝刀」になり得るか。



実物を手に取り鑑賞する「お刀女子」たち(山陽新聞社提供)

イベント・レポート

林原美術館ほか「二次元VS日本刀」展

「ファンタジー」夢見る力」の必要性

国宝九鬼正宗をバックに不思議なキャラクターのボスター。従来の概念では到底想像もし得なかった異形の剣の数々。長年日本刀に深く関わってきた私にとって、この展示は大きな戸惑いを感じずにはいられないものでした。

そこでその戸惑いを解決すべく、今一度歴史の成り立ちという根源的なものに立ち帰ることにしました。

歴史の成り立ちには「古事記」、モーゼの十戒など、史実がもはや史実とは思えないようなファンタジーに満ちたものとして今に伝わり、そして今もなお、私たちの心の拠りどころとして親しまれています。ファンタジーとは、「夢見る力」であり、夢見る力は常に私たちに勇気と活力を与え続けます。

では、なぜ今「二次元VS日本刀」展なのか……。



国宝九鬼正宗と筆者

一さんらが名を連ねる。二次元の作品を、モチーフになった刀剣と一緒に展示する斬新な企画で、日本刀に興味を持っていただきたきっかけとなったことでしょうか。

日本刀に関わる人間として、次世代に日本刀の夢見る力を伝えることは、長らく大きな課題でした。今回のイベントは、私たちが無意識に設けてしまった既成概念や柵を、自由な発想でいとも簡単に飛び越えてくれた。

私が初めに感じた戸惑いは、その勇気と力強さを目の当たりにしたからだったと思います。次世代の人たちとともに、日本刀の夢見る力を共有することこそ、今後の私たちの使命だと強く感じたイベントでした。

(佐藤均)

大阪歴史博物館「エヴァンゲリオンと日本刀」展

エヴァンゲリオンを通じて日本刀を若者へ

七月三日から九月十六日まで大阪歴史博物館六階特別展示室において、特別展「エヴァンゲリオンと日本刀」展が開催された。この展覧会

映画最新作「エヴァンゲリオン 劇場版・Q」は昨年十一月に公開された。作品の監督である庵野秀明氏はスタジオジブリの宮崎駿氏の弟子であり、アニメファンの間ではカリスマ的存在でもある。最近では七月二十日に公開された話題を呼んでいる映画「風立ちぬ」の主演の吹き替えも演じている。

エヴァンゲリオンとは何か。それは95年からテレビ東京系列(TXN)で放送された、いわゆるロボットアニメである。放送当時平均七・二という低視聴率ながら、放送終了後に斬新なストーリーが物議を醸し、賛否相半ばした。80年代の『宇宙戦艦ヤマト』、80

年代の『機動戦士ガンダム』と並び、後のアニメへ大きな影響を与えた第三世代のアニメ作品でもあり、爆発的なアニメブームのきっかけとなった。後に映画化・漫画化・小説化・ゲーム化と、さまざまなメディアにその余波は広がり、二十年近くたった今もその人気は絶えない。

果たしてなぜ、エヴァンゲリオンはここまで人気なのか。

十四歳の少年・少女が巨大人型ロボット(正確には人型人間)の体に乗込み、正体不明の敵と戦うというありきたりなストーリーだが、登場するキャラクターたちの心理描写、細部にこだわったメカ造型、大胆な映像演出、そして誰も予想できない展開が現代の若者たちの心を鷲掴みにしてきたのだ。

筆者はテレビ版の放送が終わった四、五年後にその存在を知り、当時中学生ながらもレンタルビデオ屋に駆け込み、全巻を観賞した。その衝撃はあまりに強く、今では立派なアニメオタクである。

本展覧会に関しては、玉山真敏氏が既に『刀剣界』第七号に備前長船刀剣博物館での本展を、また第八号にてカタログを紹介されているが、今回は「エヴァンゲリオンと日本刀」の両面を知る。私の視点からレポートさせていたければと思います。

八月五日、大阪城の目の前にある大阪歴史博物館に赴いた。

今回、一部を除いて展示作品のほとんどが撮影OKという珍しい条件だったため、午前中で仕事を切り上げ、カメラのボディと大量のレンズをカバンに詰め込み、意気揚々と新幹線に乗り込む。しかし連日の猛暑は残酷で、博物館前に到着した時点で、荷物の重さも加わって既に意気消沈。さして冷房の効いていないビル内をうろつき、エレベーターで六階に上がる。

会場に入り、まず目に入るのがアニメキャラクターの等身大パネルとフィギュアである。日本刀の鑑賞目的のみで入場された方は、何と場違いな所へ来てしまったんだ、と思われるかもしれないが、アニメオタクなら迷わず並んで写真を一枚撮ってしまう状況だ。

他に類を見ない日本刀の展覧会のエントランスだが、中身はしっかりしている。映画最新作の紹介のパネルと併せて、日本刀を鑑賞するのは初めて、という方々のために、しっ

かりと刀剣の歴史、製作工程、刃文や地鉄、新作刀を用いた姿の変遷まで丁寧に解説されている。これは筆者が訪れた刀剣の展覧会の中で、一番わかりやすく、詳細に記載されていると感じた。

奥へ行くにキャラクターをモチーフにしたオリジナルの日本刀や、「マゴロクソード」「ビゼンオサフネ」といった作中でエヴァンゲリオンが使う武器そのものを再現しているものまで、さまざまである。中には刃長が四尺近くあるものや、刀身に欄間透かしてキャラクターそのものを彫ってあるものまである。機械的なデザインの特徴に収まった日本刀は、まるで2Dの世界からそのまま出てきたような異様な雰囲気を感じ出している。

作中でカギとなる武器をダマスカス鋼を使って表現した全長三三・二cm、重さ二二・二kgの二又槍「ロンギヌスの槍」も面白い。日本刀としての形を保ちつつ、アニメの世界を再現したこれらの作品は日本刀の新しい挑戦であり、両面を知る私は、その完成度の高さに驚かされた。

筆者のようにアニメ・ゲーム・漫画で育った今の二十歳の若者の中で知られる日本刀といえば、RPGゲームの中で出てきた武器で、「コテツ」「ムラマサ」くらいのもので、実物は見たことも触ったこともないのが当たり前。まして浪費を嫌う今の若者が、一体どうして美術品に興味を持つか。親から子へ日本刀が受け継がれ、自然にその文化を浸透させてきた時代は終わりを迎えたつある今、いかにして後世に伝えていくか。

「エヴァンゲリオンと日本刀」展は巡回展で、初回の備前長船刀剣博物館だけでなく二か月の会期中に四万七千余人が訪れたという。その後、愛知・広島・札幌・福岡、そして今回の大阪と巡回し、今後は九月二十一日(土)十一月十一日(月)岐阜県・関鍛冶伝承館、十一月二十三日(土)十二月二十三日(月)祝)東京・上野の森美術館での開催を予定している。累計来場者数は、日本刀の展覧会で過去最高になるとの予想。恐るべしエヴァンゲリオン。(大平将広)



プロダクションナイフ製型(丸)

催事情報

■全日本刀匠会事務局

〒700-0904 岡山市北区柳町2-1-1 ☎086-227-5721

第8回お守り刀展覧会

日本刀は、古来より作刀・研磨・木工芸・金工・漆芸・組紐とわが国伝統美術工芸の粋を集めて製作されてきた。本来の日本刀は刀身だけではなく、それを納める外装を含めた総称として考えるのが自然な姿ととらえられている。

「お守り刀展覧会」は、全国の刀匠・刀職者から作品を募り、刀剣に関係する伝統技術の継承と向上を図るとともに、伝統に基づく刀剣作品のうちから優秀なものを選んで展示し、わが国伝統工芸の健全な発展に寄与することを目的として開催する。なお、今回初めて文部科学大臣賞が授与される。

受賞者は次の通り。

〈刀身の部〉

出品点数37点(招待5点)

- 1席・特賞 岡山県知事賞 宮入 恵
- 2席・特賞 坂城町長賞 三上孝徳
- 3席・特賞 長野県教育委員会賞 根津 啓
- 4席・入賞 瀬戸内市教育長賞 吉川三男
- 4席・入賞 ワコースポーツ・文化振興財団賞 瀬戸吉廣
- 6席・入賞 財団法人さかきテクノセンター理事長賞 明珍裕介
- 7席・入賞 信濃毎日新聞社賞

河内一平

- 8席・入賞 山陽新聞社賞 月山一郎
 - 9席・入賞 テレビせとうち賞 赤松伸咲
 - 10席・入賞 NBS長野放送賞 加藤政也
 - 11席・入賞 全日本刀匠会賞 古川信夫
- 佳作 上山陽三・松川隆・木村光宏

〈外装の部〉

出品点数6点(製作代表者)

- 1席・特賞 長野県知事賞(特賞) 宮入 恵
- 2席・入賞 岡山県教育長賞 桑野敏朗

特別賞 日立金属賞 吉原國家

新人賞 根津 啓

〈総合の部〉

出品点数4点

- 1席・特賞 文部科学大臣賞 宮入 恵
- 2席・特賞 瀬戸内市長賞 瀬戸吉廣・桑野敏朗

展覧会は、下記2会場で開催される。

坂城町鉄の展示館(長野県埴科郡坂城町坂城6313-2): 9月14日(出)~10月27日(日)

備前長船刀剣博物館(岡山県瀬戸内市長船町長船966): 10月31日(木)~12月23日(月・祝日)

■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728

特別展「戦国アバンギャルドとその昇華 変わり兜×刀装具」

変わり兜とは、さまざまな物象を立物などで飾ったり、鉢自体を何かの形に作り込んだりするなど、ユニークな造形で人目を惹く兜を総称して呼び習わしていますが、そのバリエーションに富んだ造形は、今日の私たちの目をも楽しませてくれるものです。一方、戦国時代から江戸時代にかけて、刀の外装、ことに鐔などの装剣金具類の世界では、所有者のステータスを表すべく、贅を尽くした細工の数々が施されるようになり、その高い技術と豊かな造形は、現在、サムライ・アートとして海外でも高い人気を博しています。

今回の展覧会では、戦に臨んだ武将たちの緊張感から紡ぎ出された究極の形としての変わり兜や、泰平の世に開花したデザイン性の強い変わり兜、極小の世界に壮大な世界を繰り広げる多彩なデザインの刀装具など約250点を展示します。

また本展覧会にちなみ、関西大学名誉教授で、考古学の大家であった故・末永雅雄氏が収集した刀装具のコレクションを初公開します。

主な展示構成は次の通り。

①威厳と異形

戦国武将と異形兜/戦国の世の刀装具

②桃山から江戸へ

御道具としての甲冑/お抱え金工の世界

③鉄の造形

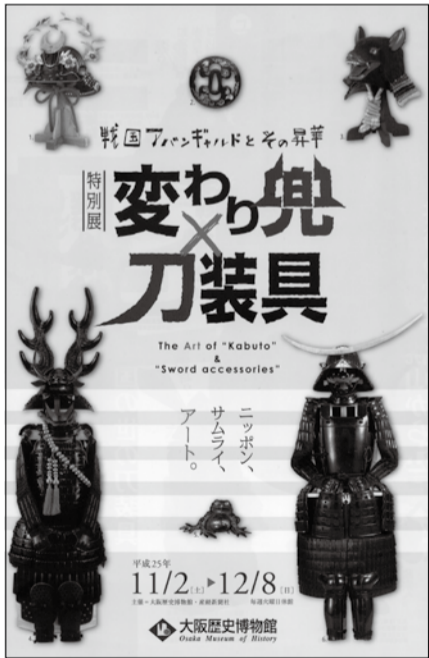
鉄打出兜の造形/鉄透鐔の展開

④技術の爛熟とリアリズムの追求

変わり兜の造形力/多彩な彫金/華麗な鞘塗

〈特別出品〉初公開・末永雅雄コレクション 刀装具

会期: 11月2日(出)~12月8日(日) 毎週火曜日休館



大阪歴史博物館のご厚意で、「戦国アバンギャルドとその昇華 変わり兜×刀装具」展の入場招待券を本紙読者10組20名にプレゼントします(先着順)。お申し込みは組合事務所まで。

〈お詫びと訂正〉前号2ページの記事中「清麿展」を開催する機関として、誤って萩美術館を紹介しました。正しくは萩博物館(〒758-0057 山口県萩市大字堀内355 ☎0838-25-6447)でした。関係機関および関係者の皆さまにご迷惑をおかけしたことをお詫びし、訂正します。

■徳川美術館

〒461-0023 愛知県名古屋市東区徳川町1017 ☎052-935-6262

秋期特別展「歌仙—王朝歌人への憧れ—」

優れた歌人は尊敬を込めて「歌仙」と呼ばれ、「六歌仙」や「三十六歌仙」、藤原定家撰と伝えられる「小倉百人一首」など、さまざまに組み合わせられ、親しまれてきました。やがて歌仙は、その絵姿を和歌・略伝とともにあらわした歌仙絵として、日本における絵画の主要な題材となります。

本展覧会では、江戸時代・17世紀に古典復興の気運が高まる中で制作された歌仙絵の名品を中心に、鎌倉・室町時代以来の伝統的な歌仙絵と、その図様が継承され展開していく様相をご覧ください。

会期: 9月28日(出)~11月4日(月・休)



六歌仙(小野小町) 徳川美術館蔵

特別企画「夢幻能—うつつと異界の境—」

今日、わが国を代表する舞台芸能である能は、その主要人物の多くが現実に生きる者ではなく、死者の霊や怨霊などで登場します。このような能を「夢幻能」と呼びますが、その名の通り、夢・幻のような霊が舞います。しかし、恐ろしいだけではなく、源氏や平家などの英雄たちの亡霊、「源氏物語」の登場人物の霊、恋の思い出を舞う美しい亡霊など、さまざまに登場します。霊という形で人間の内面を深く掘り下げた能の

舞台演出の特質を探ります。
会期: 11月9日(出)~12月13日(金)



紅・萌黄・黒・白段扇に唐草文唐織

■日本橋高島屋 6階美術画廊

〒103-8265 東京都中央区日本橋2-4-1 (地下鉄日本橋駅上) ☎03-3211-4111

刀工宮入小左衛門行平展—清明—

各方面で刀剣普及活動に活躍する中、相州伝技術に磨きをかけた宮入小左衛門行平刀匠の最新作約30口を展示・販売する。平成15年の第1回展から今回で4回目となる日本橋高島屋での個展。外装に凝った作品も多く、華やかな会場に多くの来場者が期待される。

会期: 10月2日(水)~8日(火) 午前10時~午後8時 (最終日は午後4時まで)

ギャラリートーク: 10月5日(土)午後2時



■頼山陽史跡資料館

〒730-0036 広島市中区袋町5-15 ☎082-542-7022

広島「KAZARU展」

広島「KAZARU展」は、KAZARU(飾る)をキーワードに、伝統的工芸技術によって制作された作品を広く公募し、コンクール形式による展覧会を開催することで広島に根付かせ、継承すべき優れた日本の伝統技術・伝統文化の魅力と可能性を広く紹介しようとするものです。今回は平成25年度文化庁「文化遺産を活かした地域活性化事業」に採択されました。

本展では、コンクール入選作品と実行委員会推薦による参考作品・招

待作品、近世書画作品など、50点余を紹介します。最高賞の広島県知事賞・テーマ賞には坂田恭子さんの「帯を飾る」「瀬戸の漣」が選ばれ、刀剣関連では引地和信・前西麻里絵・甲田絵梨子・坂田恭子さんの共同制作「金箔散変塗出鮫瓢箪駒図一作金具合口拵」が広島市教育委員会賞を受賞しました。

会期: 9月8日(日)~10月6日(日) 会期中、文化講演会やワークショップなども開催されます。

■川越市立博物館

〒350-0053 埼玉県川越市郭町2-30-1 ☎049-222-5399

「平成25年新作名刀展—現代の刀工と刀職—」 「第56回埼玉県名刀展—武士のよそおい—」

会期: 9月21日(出)~10月6日(日)